

《薬局サーベイランスコメント》

『2018年第8週のインフルエンザの患者数は約92万人と3週連続して減少しているが、流行はまだ継続しており、3月に入っても注意が必要』

2018年2月27日
済生会中津病院感染管理室
安井 良則

今シーズン（2017/2018年シーズン）の2018年第8週（2月19日～25日）の1週間当たりのインフルエンザの推定患者数は901,568と3週連続して前週の値よりも大幅に減少しました（図1）。また、週明けの月曜日（2018年2月26日）の推定患者数は172,699と前週の月曜日の値を下回っており、インフルエンザの患者数は更に減少していくものと予想されます。

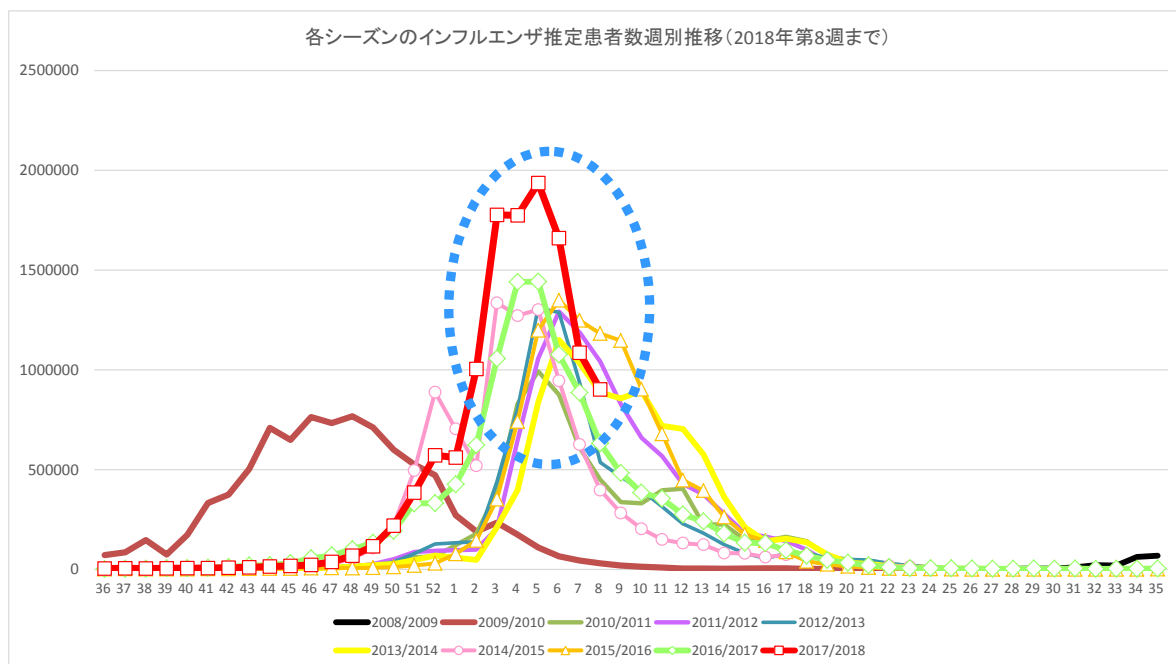


図1. 過去7シーズンと今シーズン（2017/2018年シーズン）の第36～第7週までのインフルエンザ推定患者数の週別推移（2018年第8週の推定患者数= 901,568）

各都道府県別の第8週の人口1万人当たりの1週間の推定受診者数をみると北海道、富山県、秋田県、徳島県、福井県、三重県の順となっていて、43都道府県で前週の値よりも減少がみられました。

2017年第36週から2018年第8週までの累積の推定患者数は12,199,944であり、2017年10月1日現在の人口統計を元にした累積罹患率は9.63%でした。年齢群別で

の累積罹患率は5～9歳（41.70%）、10～14歳（29.79%）、0～4歳（22.19%）、15～19歳（13.80%）、40～49歳（8.49%）、30～39歳（8.03%）、50～59歳（7.07%）、20～29歳（6.70%）、60～69歳（4.51%）、70歳以上（2.97%）の順となっています（図2）。5～9歳の累積罹患率は、昨シーズン（2016/2017年シーズン）の1年間の値（31.74%）を既に大きく上回っています。

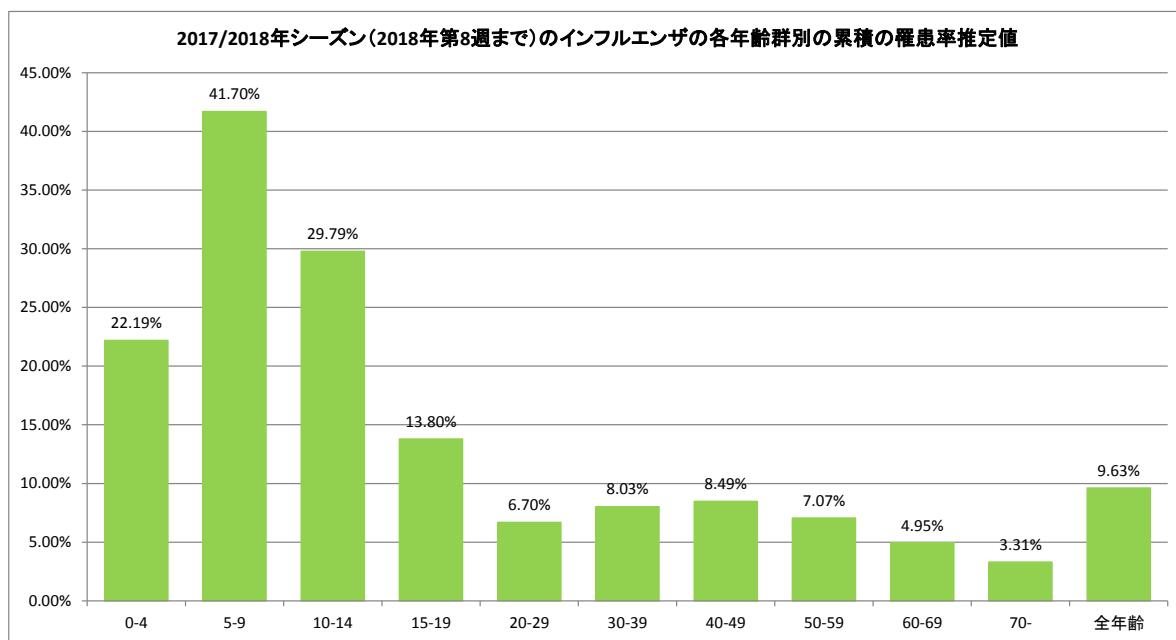


図2. 各年齢群のインフルエンザ累積罹患率の推定値（2017年第36～2018年第8週、累積推定患者数=12,199,944）

国立感染症研究所感染症疫学センターの病原微生物情報（<https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr/510-surveillance/iasr/graphs/1532-iasrgv.html>）によると、今シーズンこれまでのインフルエンザ患者由来検体から検出されたインフルエンザウイルス（4,144検体解析）は、B型40.0%、A/H1pdm39.0%、A/H3（A香港）亜型が21.0%の順となっています。一方、2018年第3週以降に検出されたインフルエンザウイルス973検体の解析ではB型57.6%、A/H3（A香港）亜型26.8%、A/H1pdm15.5%とB型（大半が山形系統）が多数を占めています（図3）。

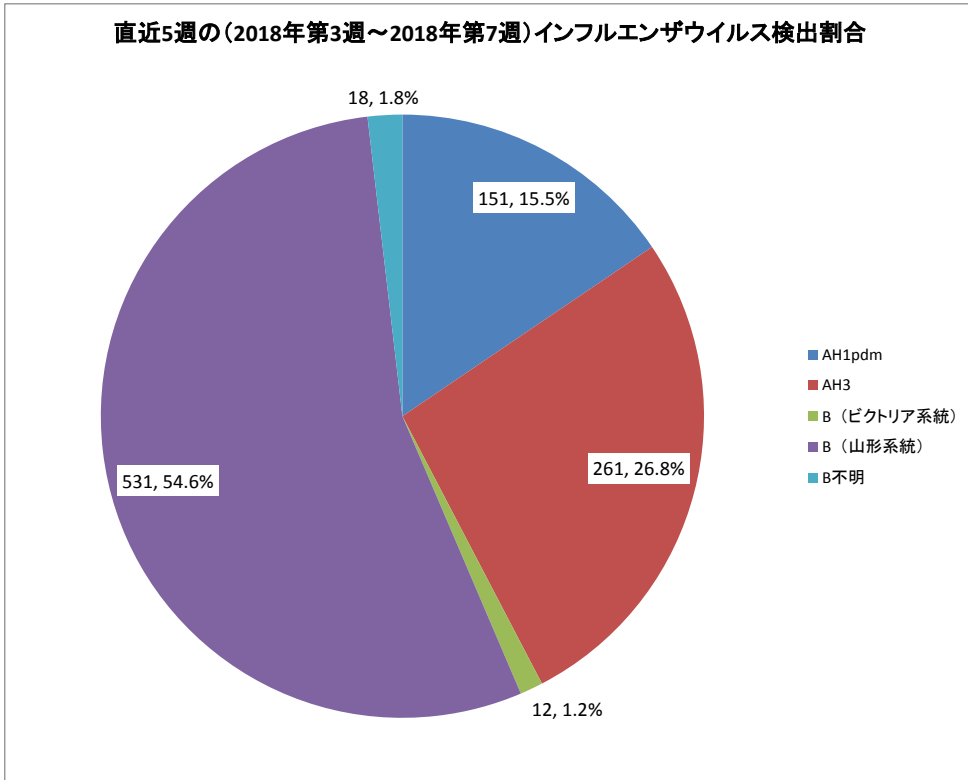


図 3. 直近 5 週間のインフルエンザウイルスの検出割合 (2018 年第 3 週以降、検出数 973)

第 8 週のインフルエンザの患者数は約 92 万人と 3 週連続して減少がみられ、今後もこの減少傾向は継続していくものと予想されます。一方、B 型インフルエンザを中心とした流行はまだ継続しており、3 月に入ってもインフルエンザの流行には注意が必要です。